

## カゴメグループ 生物多様性方針

### <サプライチェーンでの保全>

#### 1. 遺伝資源の維持と利用

トマトや野菜の遺伝的多様性が保たれるよう、保全措置をとる。また各国が保全してきた遺伝資源を適切に活用するため、国際的また各国の法令や規則に則った利用を行う。

#### 2. 農業の環境負荷低減

農業による環境負荷を最小化する。新たな農地開発や集約化による影響を最小化させるとともに、生物多様性へのリスクが高い化学物質は予防原則にしたがって代替物質に置き換える。

#### 3. 農地の周辺の生態系保全

農地や里山など周辺の生態系が、豊かな土壌や水、害虫の天敵となる生物など農業生産を支える（※）生態系サービスを提供していることを認識し、農地と周辺生態系の生物多様性を保全することで、生態系サービスの持続性を高める。

#### 4. 調達品の環境負荷低減

原産地の生物多様性への影響を低減するため、違法または環境に大きな負担をかける方法で作られた原材料を使用しない。

#### 5. 輸送時の配慮

外来生物の侵入による生態系攪乱などの課題を認識し、生態系に配慮した輸送方法を選択する。

#### 6. 工場の環境負荷低減

工場の操業による環境負荷を最小化するとともに、工場生産を支える地下水などの生態系サービスの持続可能な利用を目指す。

#### 7. 製品・サービスへの配慮

持続可能な消費につながる選択肢として、生物多様性への影響が少なく、その保全に貢献する製品・サービスの提供に努める。

## <社内外のパートナーとの協働>

### 8. 社内外への浸透

当社の事業が、「自然の恵み」に支えられ成り立っていることを全従業員が認識し、事業内での生物多様性配慮を促進する。また、市民を対象にした生物多様性の理解促進に取り組む。

### 9. 社外との対話

消費者や地域住民、NPO、株主、専門家などのステークホルダーとの対話や協働を通して、活動の質を向上させる。

### 10. 情報公開

生物多様性保全の取り組みを広く周知し、外部からの意見を取り入れて活動にフィードバックする。

### 11. 社会貢献

生物多様性は農地や工場などの事業所内だけの問題ではなく、周辺とのつながりの視点が重要であることを認識し、地域の生物多様性保全の課題にも積極的に取り組む。

### 12. 根本原因への対応

生物多様性を減少させる直接的な要因だけでなく、日本の農業衰退など、社会的・経済的な要因についても、その解決に向けた取り組みを進める。

※生態系サービス・・・生態系から得られる恵みであり、以下のサービスに分類される。

供給サービス：食料や水、燃料、木材など人間の生活に重要な資源を供給するサービス

調整サービス：気候・水の調節や、土壌浸食の防止、水の浄化等、環境を調整するサービス

文化的サービス：精神的充足や美的な楽しみ、レクリエーションの機会等を与えるサービス

基盤サービス：植物による酸素の生成、土壌形成、水循環等、上記3つのサービスの供給を支えるサービス